

(別紙様式 1)

## 農林水産物・食品輸出促進計画（促進計画）

### 1. 本計画の対象港湾

(記載例)

要綱 2. (1)①②事業実施港湾：十勝港

### 2. 本計画の対象とする農林水産物・食品

長いも、魚油、牛肉、豚肉

### 3. 本計画の対象港湾の現況、対象とする農林水産物・食品の輸出货量や輸出促進の取組の状況、将来見込み

#### (1) 十勝港の現況

十勝港は、北海道と首都圏とを結ぶ海路の最短距離に位置し、その背後圏には帯広を中心とした日本有数の食糧基地「十勝」を有している。十勝の農業は北海道における農業生産の約 4 分の 1 を占める。

背後圏で生産された農畜産物や加工品は、十勝港を經由して全国各地へ供給されており、十勝港の取扱貨物量の約 7 割は農業関連品である。

#### (2) 対象とする農水産物・食品の輸出促進の取組の状況、将来見込み

令和 6 年 5 月、京浜港との間で内港フィーダーコンテナ航路（週 1 便）が新たに開設されたところであり、京浜港を經由した道内の農水産物（長いも、魚油）の輸出が始まっている。令和 6 年の農水産物の輸出実績は、長いもが輸出货量約 30 トン、輸出額約 0.1 億円、魚油が輸出货量約 820 トン、輸出額約 3.5 億円の計輸出货量約 850 トン、輸出額約 3.6 億円である。

農林漁業団体や十勝管内の市町村等で組織する「フードバレーとかち推進協議会」において、国内、海外においてイベントへの出展や観光物産セミナーを開催し、十勝の物産の販路拡大や観光の魅力を発信する活動を進めている。

牛肉・豚肉については、背後圏に位置する畜産公社十勝工場は、令和元年に「牛肉の対米輸出が可能な施設」として、令和 2 年には「食肉の EU（欧州連合）への輸出が可能な施設」として認定されるなど輸出拡大に向けた体制が構築されており、リーファー電源設備の整備により、十

勝港からの輸出が見込まれる。また、長いものについても、リーファー電源設備の整備により鮮度維持に繋がるため、さらなる輸出促進が見込まれる。なお、魚油については、近年の輸出量の実績より将来も現状と同程度の輸出が見込まれる。

このため、背後地の農林漁業団体や十勝管内の市町村から、輸出促進に向けた港湾機能の強化が求められているところである。

### (3) 輸出における課題

十勝港のコンテナ取扱ヤードには外貿コンテナの保税蔵置所としての機能が無く、輸出にあたっては京浜港で別途通関手続きを行う必要があり、リードタイム増加の一因となっている。このため、コンテナを輸送する車両と他の港湾車両との輻輳を防止するフェンスや海霧・雨天時の安全な荷役作業のための照明装置を整備し、保税蔵置所としての機能を有することで、リードタイムの短縮を図るとともに、今後のコンテナ取扱量の増加に対応する必要がある。また、十勝港背後圏で生産される牛肉や豚肉については、十勝港におけるリーファー電源の不足により他港で取り扱わざるを得ず、非効率な輸送となっていることから、リーファーコンテナの電源供給を行うための設備を整備し、高品質な農産物等の鮮度保持を可能とするコールドチェーンを確保することが必要である。

## 4. 農林水産物・食品輸出促進基盤整備事業等に関する計画

### 4-1. 要綱2. (1)①②の事業の計画

<記載例>

港湾	事業主体	事業名	事業内容	適用予定制度	事業費	事業期間
十勝港	広尾町	農林水産物・食品輸出促進基盤整備事業	貨物積替円滑化支援施設（フェンス（ゲート含む）（約500m）、照明（20基））	港湾機能高度化施設整備費補助	124百万円	R6～R7
十勝港	広尾町	農林水産物・食品輸出促進基盤整備事業	リーファーコンテナ電源供給設備（3基）	港湾機能高度化施設整備費補助	14百万円	R6～R7

※ 記載の事業の内容の分かる資料（事業計画、図面等）を添付すること。

### 4-2. 要綱2. (1)③の事業の計画

該当無し

#### 4-3. 要綱2. (1)の事業と密接に関連のある施設整備の計画

該当無し

#### 5. 施設整備以外の取組の計画

(北海道総合開発計画における方針)

北海道総合開発計画（令和6年3月12日閣議決定）では、「我が国の豊かな暮らしを支える北海道～食料安全保障、観光立国、ゼロカーボン北海道」の目標の主要施策として、「食料安全保障を支える農林水産業・食関連産業の持続的な発展」を掲げている。その中の重点的な取組施策の一つで、グローバル市場の獲得による農林水産物・食品の輸出拡大として輸出産地の育成・展開に必要な施設整備を示している。

(港湾管理者等の取組)

○セミナーの開催（港湾管理者）

・コンテナ船の定期航路による十勝からの輸送時間の短縮や運転手の省力化などの利点を紹介。

【開催実績】

・十勝でしかできない「農業・インバウンド戦略」を考える

日時：令和6年4月13日

主催：北海道十勝総合振興局

共催：フードバレーとかち推進協議会（協議会のメンバーに広尾町を含む）、十勝地区農業協同組合長会、十勝インバウンド誘客推進協議会

参加者：約340名

○荷主企業及び商社等への企業訪問によるポートセールス活動（港湾管理者）

・令和6年5月の航路開設以降、対象品目4品目の企業及び商社へ個別訪問によるポートセールス活動を実施し、十勝港を利用してもらうように働きかけを行っている。また、対象品目以外にも輸出品目を増やすために企業へのポートセールス活動を実施しており、来年度以降も引き続き、更なる輸出促進に向けポートセールス活動を実施する予定である。

○十勝港の活用促進に向けた意見交換会（港湾管理者、商工会議所）

・航路開設前の令和6年4月に港湾管理者と帯広商工会議所は十勝港の活用促進に向けた意見交換を実施した。

・令和7年2月12日に帯広商工会議所の物流検討チームは、十勝港の活用促進をテーマに航路概要や物流の課題について地元物流企業と意見交換を実施した。

## 6. 本計画の目標

### 要綱2. (1)①②事業実施港湾

#### 【目標値】

(十勝港) 令和6年実績値：3.6億円  
令和15年目標値：16.3億円

#### 【目標年度】

・目標年度は、第9期北海道総合開発計画の計画期間と同一の令和15年とする。

#### 【目標設定方法】

(長いも、牛肉、豚肉)

- 長いも、牛肉、豚肉については、北海道全体の輸出実績の将来推計を行った上で、北海道全体の輸出額に占める十勝港の割合を乗じることで令和15年の十勝港の輸出額を推計する。
  - ・北海道全体の輸出額は、財務省「貿易統計」による直近3年間の輸出実績を基にCAGR（年平均成長率）を算出してこれを各品目の1年あたりの伸び率とし、直近（令和5年）の輸出実績に伸び率を乗じて令和15年度の輸出額を推計する。
  - ・北海道全体に占める十勝港からの輸出割合は、北海道全体の輸出額（又は生産量）に占める十勝港からの輸出額（又は十勝地域での生産量）により設定する。
- 上記により算出される十勝港の令和15年輸出額は、長いも5.4億円、牛肉6.4億円、豚肉1.1億円

(水産物（魚油）)

- 水産物（魚油）については、直近3年の輸出量が横ばいであり、関係者へのヒアリングにおいても生産量に限界があることが確認されたため、将来の増加は見込まず現状維持と設定する。令和6年の輸出額（実績）は3.5億円であり、令和15年の目標値は3.5億円とする。

## 7. 本計画の着実な推進を図るための体制等

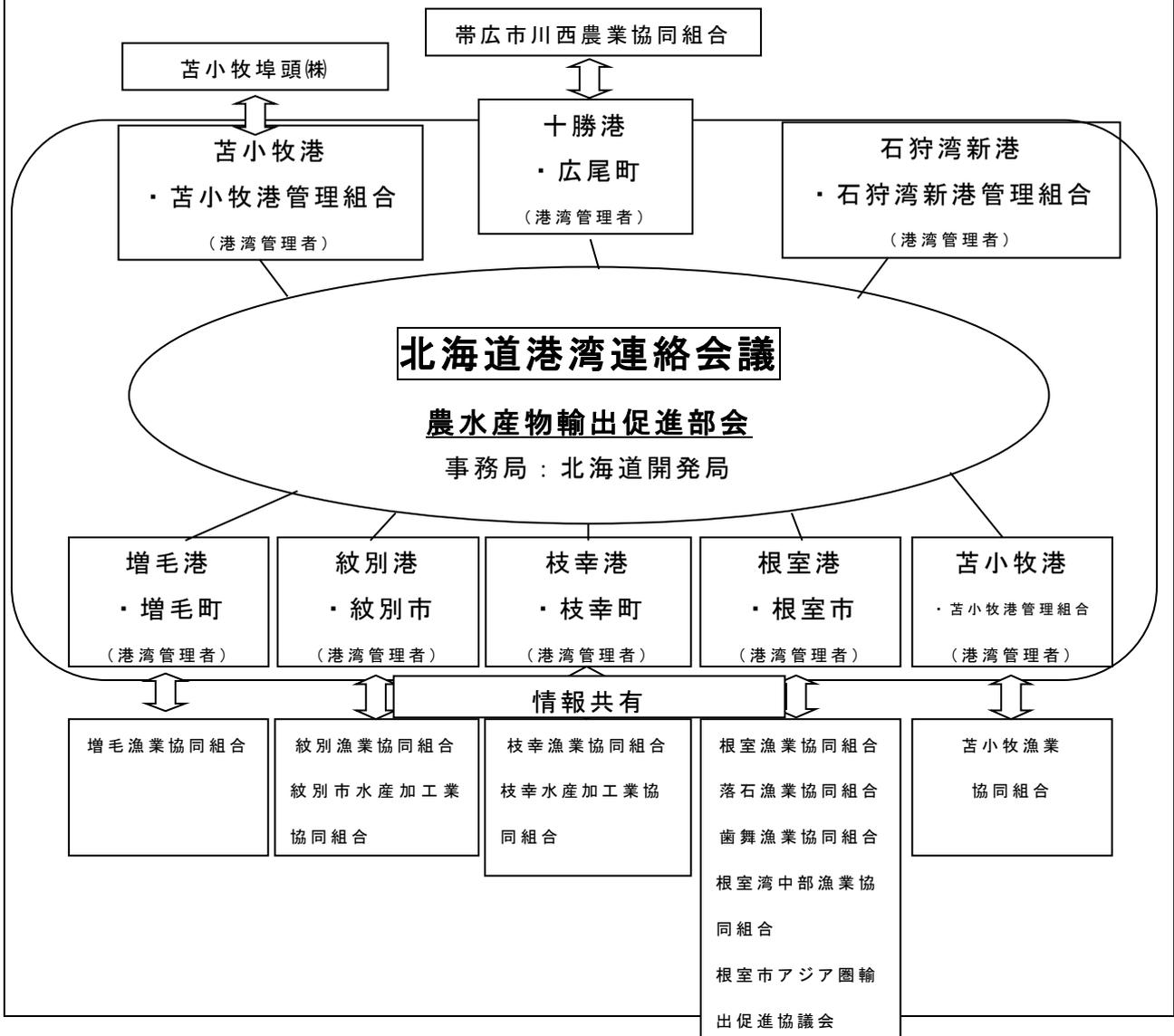
現行の「農水産物輸出促進計画」で設置した「農水産物輸出促進部会」において、本計画についても、既存計画とあわせてフォローアップを行う。

### 【「農水産物輸出促進部会」設置時期】

平成 29 年 11 月

### 【主な取組項目】

- ・ 取組みの進捗状況のフォローアップ
- ・ 現状における問題点の把握と解決策の検討
- ・ 各港湾の更なる連携施策の検討



## 8. その他特記事項